

ZENRIN
証券コード:9474

2025年3月期 第2四半期(中間期) 決算説明会

2024年11月13日

株式会社 ゼンリン

注)本資料には、本資料作成日時点で入手可能な将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれております。
世界経済の動向・市場需要・競合状況・為替の変動等にかかわる様々なリスクや不確定要因により、
実際の業績が記載の予想数値と大幅に異なる可能性がありますことをご承知おきください。
尚、本資料掲載情報は、表示単位未満の端数は切捨て、増減率は小数点以下第2位を四捨五入し小数第1位まで記載しております。
また、増減率が1000%を超える場合、及び一方若しくは両方がマイナスとなる場合は「-」表記しております。

Maps to the Future

機関投資家向け決算説明会 説明要旨

- 日時：2024年11月13日（水） 13：30～14：30
- 場所：東京本社 および Zoom
- 登壇者：株式会社ゼンリン 代表取締役社長 高山 善司

※Appendixを含む資料全体は以下の弊社ページで公開しております
<https://www.zenrin.co.jp/company/ir/library/materials/index.html>

1. 2025年3月期 第2四半期(中間期) 決算概要

2. 2025年3月期 通期業績予想

3. 各事業の概況

■ Appendix

1. 2025年3月期 第2四半期(中間期) 決算概要

- 1) 決算概要
- 2) 売上高・利益の推移
- 3) 事業別売上高の増減
- 4) 営業利益の増減【売上高・費用内訳】
- 5) 価格改定による増収効果
- 6) キャッシュ・フロー
- 7) 配当金

2025年3月期第2四半期の決算概要について、ご説明いたします。

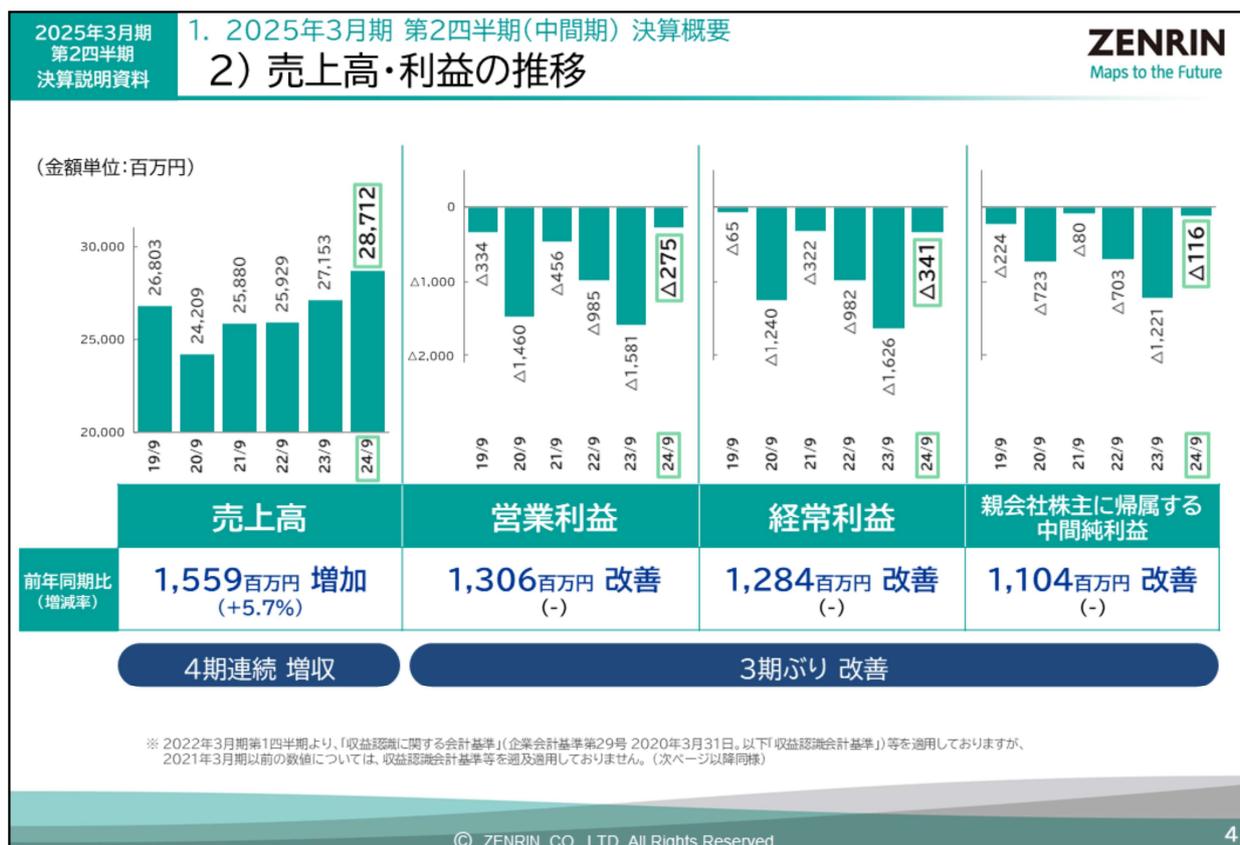
2025年3月期 第2四半期 決算説明資料	1. 2025年3月期 第2四半期(中間期) 決算概要 1) 決算概要	ZENRIN Maps to the Future	
2025年3月期 第2四半期(中間期) 決算のポイント 【前年同期比 増収増益】			
売上高	<div style="background-color: #0056b3; color: white; padding: 2px; border-radius: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">4期連続 増収</div> <ul style="list-style-type: none"> ■ オートモーティブ関連でカーナビ用データが増収、一部、一過性要因での計上を含む ■ IoT関連でAPIサービス及びソリューションサービスが堅調に推移 ■ 価格改定効果が増収に寄与 		
費用・損益	<div style="background-color: #800000; color: white; padding: 2px; border-radius: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 5px;">3期ぶり 改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ■ ベースアップ等で人件費が増加したものの、売上構成変化により限界利益率が改善 <small>※地図データベース整備費用等の固定費は年間を通して発生する一方、売上高は季節的変動が著しく年度末に集中する傾向にあり、費用先行で推移</small>		
(金額単位:百万円)	前年同期実績 (24年3月期 2Q)	当期実績 (25年3月期 2Q)	前年同期比 増減率
売上高	27,153	28,712	+1,559 +5.7%
営業費用	28,735	28,988	+253 +0.9%
営業利益	△1,581	△275	+1,306 -
営業利益率	△5.8%	△1.0%	+4.8pt -
経常利益	△1,626	△341	+1,284 -
親会社株主に帰属する 中間純利益	△1,221	△116	+1,104 -
© ZENRIN CO., LTD. All Rights Reserved.			3

**当第2四半期の連結売上高は
 前期比 15億円増加の 287億円 となりました。**

**オートモーティブ、IoTの両事業が堅調であったことに加えて、
 前期からの価格改定効果が増収に寄与し、
 第2四半期の売上高としては、4期連続の増収となりました。**

**損益面では、
 ベースアップによる人件費増で営業費用が増加いたしましたが、
 ストックサービスやデータロイヤリティビジネスの増収といった
 売上構成変化により、限界利益の改善効果が出ております。**

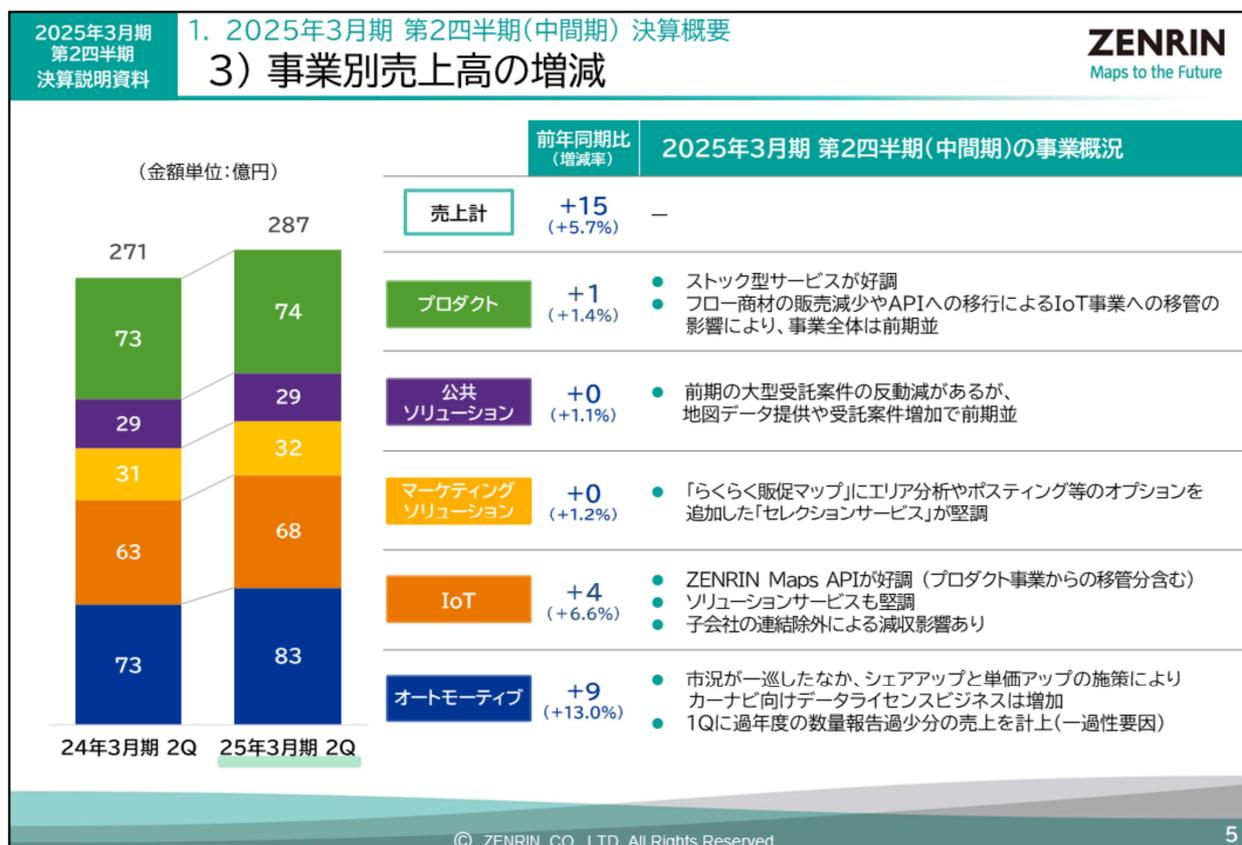
**これにより、
 第2四半期での黒字化には若干届きませんでした
 営業利益は13億円の改善、
 経常利益、親会社株主に帰属する中間純利益も
 3期ぶりに改善しております。**



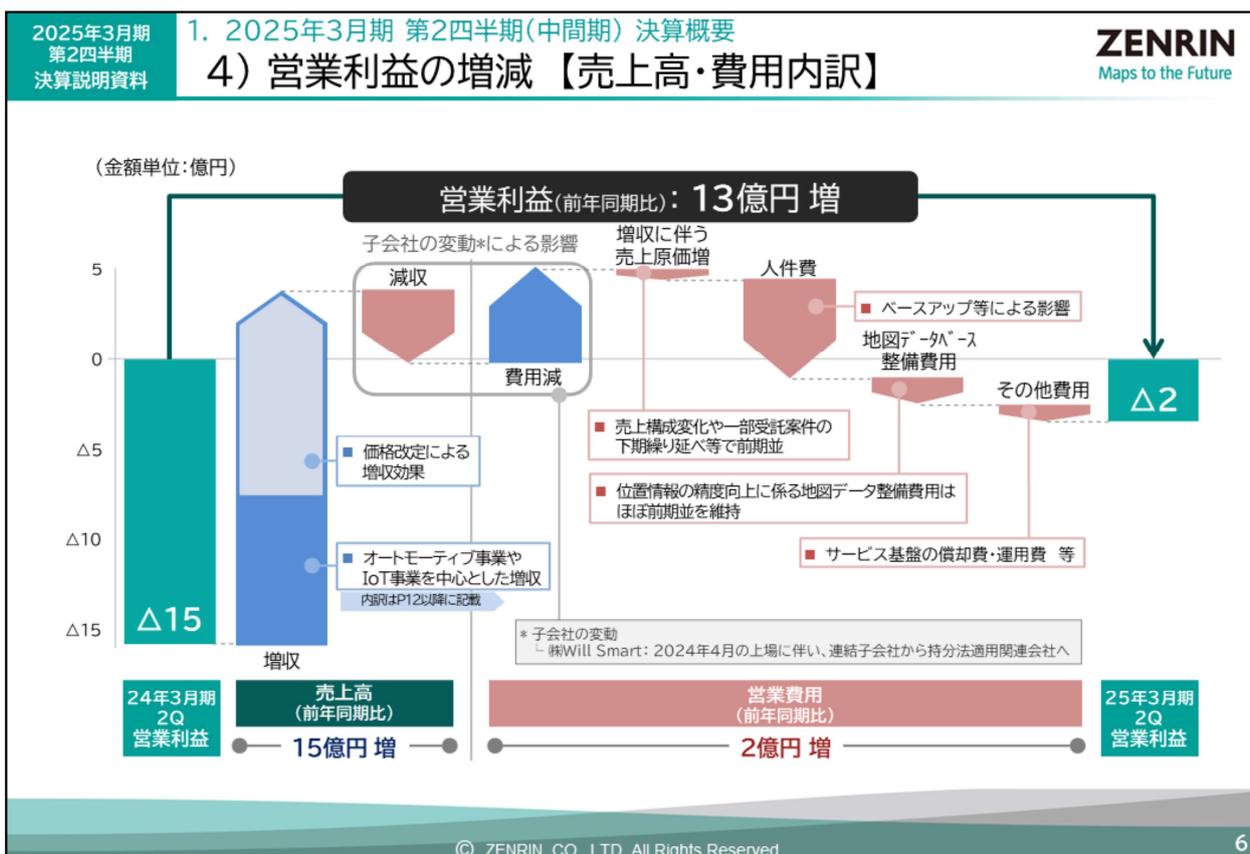
**中長期経営計画 ZENRIN GROWTH PLAN 2025の
 開始年度からの6か年の業績推移を表示しております。**

**コロナ禍で売上高は一時減少に転じたものの、自動車生産の回復や
 ストックビジネスの進捗によって、回復基調となり、コロナ前を上回って
 進捗しております。**

**各利益については、当社グループの収益構造上、
 売上高が年度末に集中するため、第2四半期では
 人件費や地図データベース整備費用などの固定費の計上が先行し、
 赤字傾向が続いております。**



このスライドは事業別の売上高の前年同期比較を示しておりますが、事業の詳細については、後ほど説明いたしますので、説明は省略いたします。



続きまして、営業利益の増減について、
 売上高と費用の観点からご説明いたします。

売上高は、
 冒頭に説明のとおり、オートモーティブ事業やIoT事業の増収に加え
 価格改定により15億円の増収となりました。

営業費用は、
 ベースアップによる人件費の増加はございますが、
 売上原価については、売上構成の変化により変動費を抑制できております。

また、地図データベース整備費用は、
 位置精度向上の取り組みを継続しているため、
 前期と同水準で進捗しております。

以上の結果、費用全体では前年同期比で 2億円の増加にとどまっております。

なお、連結子会社であった「Will Smart」の
 グロース市場への上場に伴い、連結除外となったことで
 売上高・費用両面で影響が生じております。
 第2四半期においては、若干の益目の影響となっております。

2025年3月期
第2四半期
決算説明資料

1. 2025年3月期 第2四半期(中間期) 決算概要

5) 価格改定による増収効果

ZENRIN
Maps to the Future

<価格改定による増収効果>

- 前期実績:約10億円
- 今期通期見込:約20億円 → 進捗:約10億円

- 自社パッケージ製品(①②) = 予定通り価格改定を適用済
- 提案案件等(③④) = 交渉順調、期中のクロージングに取り組む
- ナビ関連(⑤) = 次期モデル向け交渉継続中、今期は影響なし

<価格改定による増収効果のイメージ>

<商品・サービス毎の価格改定実施状況>

	製品・サービス	事業	ビジネス	価格改定の適用・取組状況
①	住宅地図帳	プロダクト 公共ソリューション	フロー	・適用済(23年4月以降の発刊分に適用)
②	GISパッケージなど配信サービス	プロダクト 公共ソリューション	ストック	・適用済(23年8月以降の契約更新分に適用、一巡済) ・価格改定理由での解約はほぼ無し
③	住宅地図データ提供	プロダクト 公共ソリューション	フロー	・一部は前期中に合意して適用済 ・大多数は今期納入分で適用予定 → 現在クロージング活動中
④	受託案件	各事業	フロー	
⑤	カーナビ向け地図データライセンス	ナビ-ナビ	フロー	・次期モデル向けに交渉継続中 ・発現時期や影響規模は未定(通常、2~3年先の発売を睨んで交渉)

© ZENRIN CO., LTD. All Rights Reserved. 7

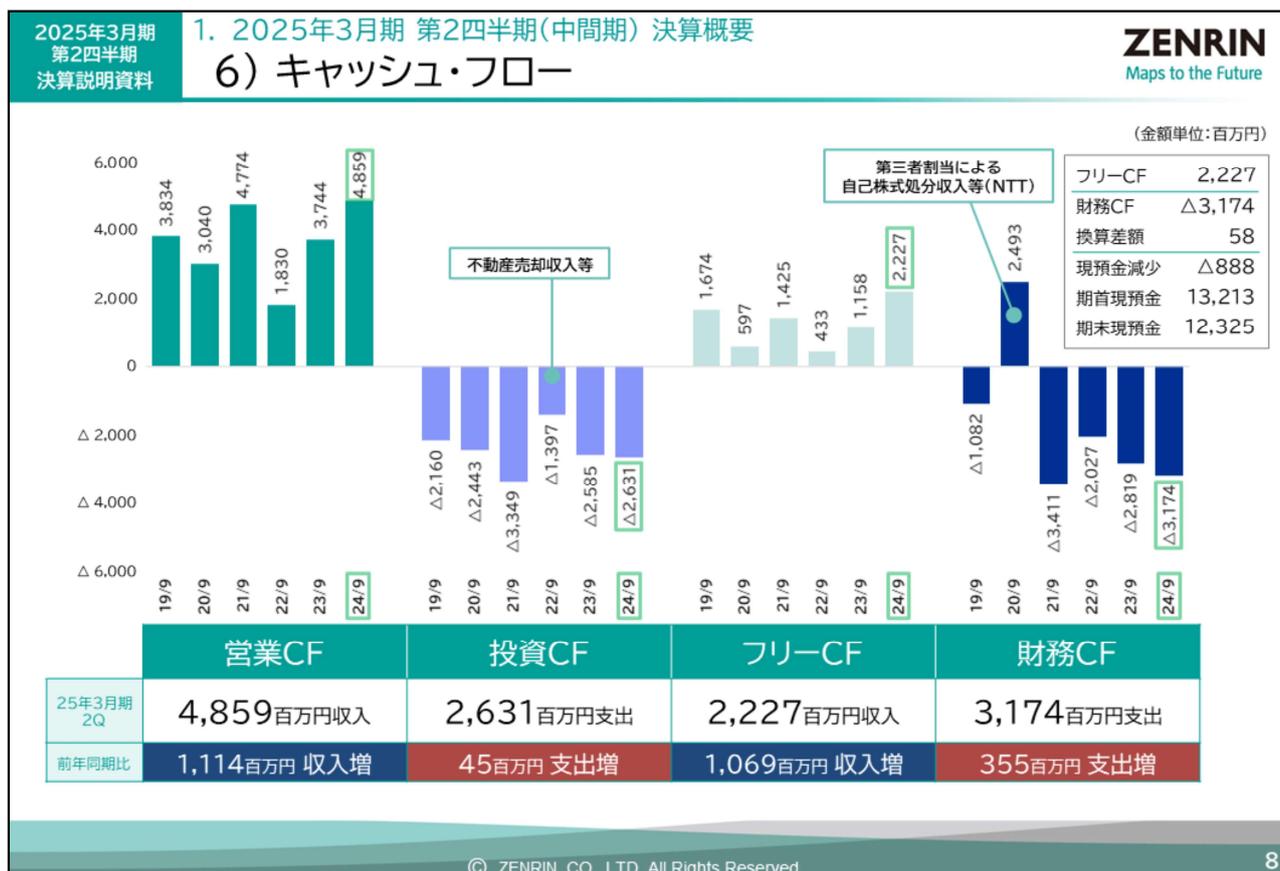
価格改定による影響について、ご説明いたします。

前期4月から段階的に価格改定を実施し、顧客との交渉を続けております。
 今期は、通期で約20億円の増収影響を見込んでおります。
 第2四半期では約10億円となり、
 当初の予想どおり順調に進捗しております。

商品・サービス別では、
 住宅地図帳とGISパッケージは新価格の適用が完了いたしました。
 GISパッケージでは、この8月までに既存取引先に対して
 新価格での契約更新が完了しております。

住宅地図データ提供や受託案件では、前期から取引先との交渉を続けており、
 規模や時期の違いはございますが、
 今期中に新価格を適用した契約更新に向けて、引き続き取り組んでまいります。

カーナビ関連でも、取引先メーカーと交渉を行っておりますが、
 2~3年後に発売予定の次期ナビモデルを交渉対象としておりますので、
 価格改定効果が得られる時期や規模は、現時点では未定としております。



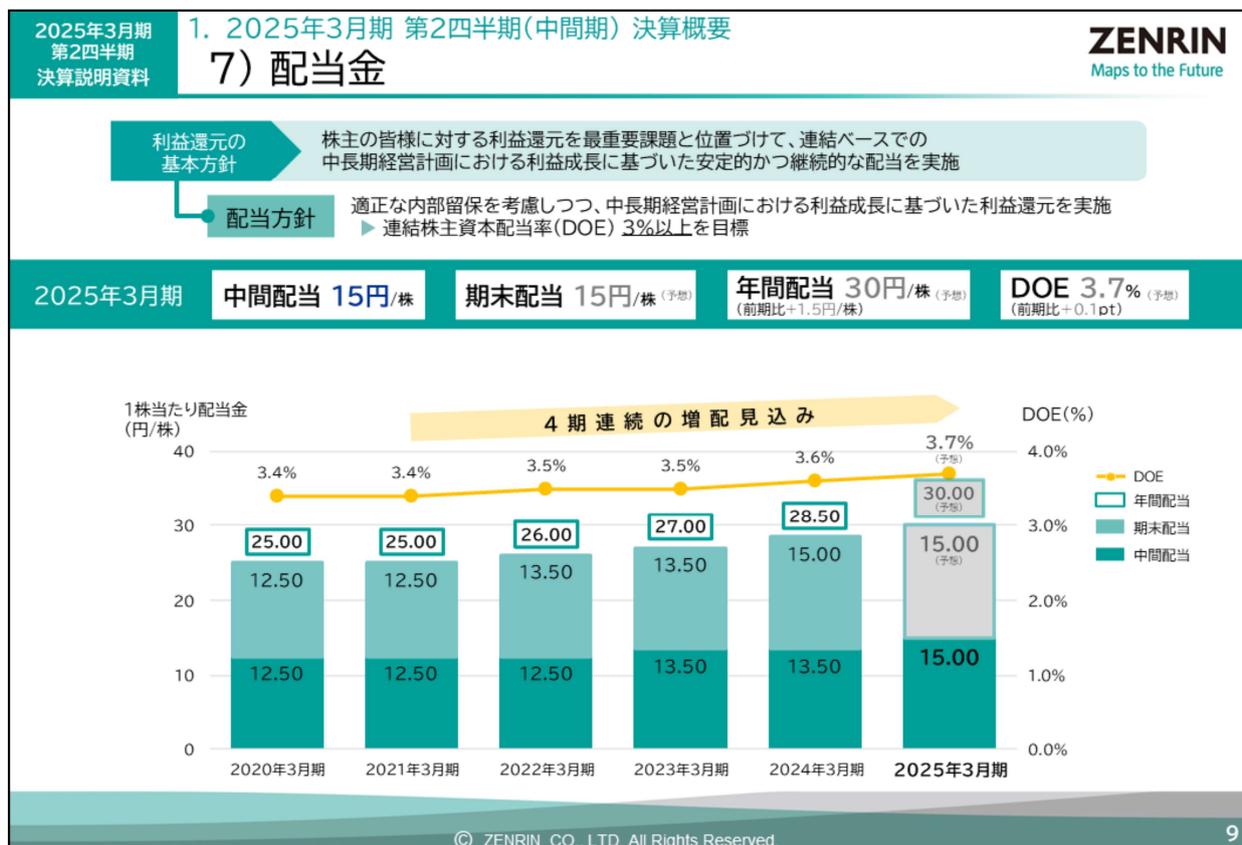
キャッシュ・フローの状況です。

営業キャッシュ・フローは、48億円の収入となりました。

投資キャッシュ・フローでは、
 時空間データベースやサービス基盤へのソフトウェア投資を継続しております。
 4月には「Will Smart」の株式売却による収入がありましたが、
 連結子会社とした「ローカスブルー社」の株式取得があり、
 26億円の支出となりました。

22億円のフリーキャッシュ・フローから、
 配当金の支払いと借入金の返済に充て、
 財務キャッシュ・フローとして31億円を支出いたしました。

以上により、中間期末の現預金残高は、
 8億円減少の123億円 となりました。

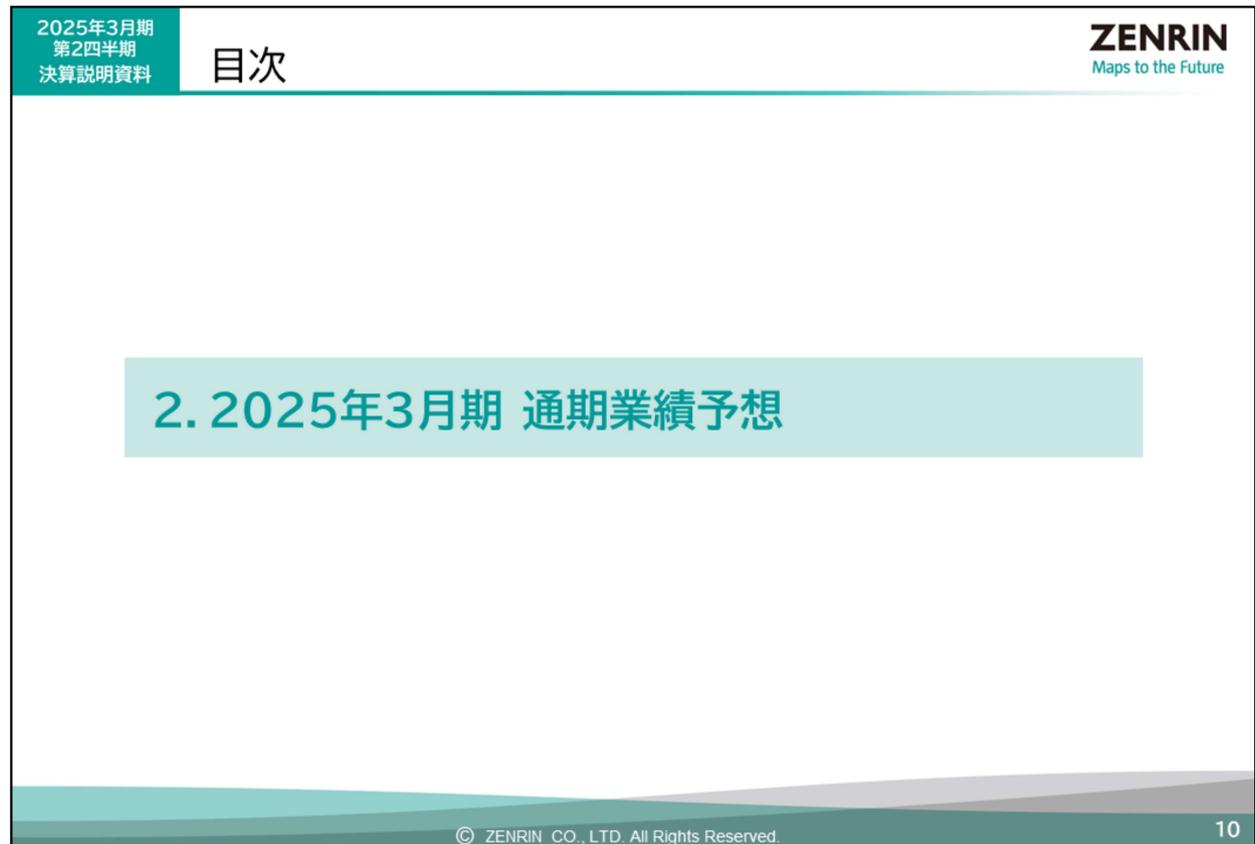


配当金についてご説明いたします。

当社は利益成長に基づいた、安定的かつ継続的な配当の実施を基本方針としており、
目標とする指標も、配当性向ではなく、DOEを採用しております。

配当方針に則り、25年3月期の中間配当金は
前期から 1円50銭 増配し 1株当たり15円といたしました。

期末配当金も 1株当たり15円 を予定しており、
年間配当金は、1株当たり30円となり、
4期連続の増配となる見込みです。



2025年3月期 の通期業績予想について、ご説明いたします。

2025年3月期 第2四半期 決算説明資料		2. 2025年3月期 通期業績予想		ZENRIN Maps to the Future	
		1) 通期業績予想			
期初業績予想から変更なし					
売上高	<ul style="list-style-type: none"> ■ GISパッケージなどのストック型ビジネスの拡大と価格改定による増収 ■ 自動車生産回復に伴いオートモーティブ関連売上が堅調に推移 				
費用・損益	<ul style="list-style-type: none"> ■ ベースアップによる影響や、増収に伴う売上原価等での費用増加を想定するが、増収で吸収し、営業利益は増益を予想 				
(金額単位:百万円)	前期実績 (24年3月期)	当期業績予想 (25年3月期)	前期比 増減率		
売上高	61,335	64,300	+2,964	+4.8%	
営業費用	59,353	60,700	+1,346	+2.3%	
営業利益	1,981	3,600	+1,618	+81.7%	
営業利益率	3.2%	5.6%	+2.4pt	—	
経常利益	2,060	3,700	+1,639	+79.6%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,078 <small>※投資有価証券売却益を 特別利益に計上</small>	2,500	+421	+20.3%	
ROE (自己資本当期純利益率)	4.4%	5.0%	+0.6pt	—	

© ZENRIN CO., LTD. All Rights Reserved. 11

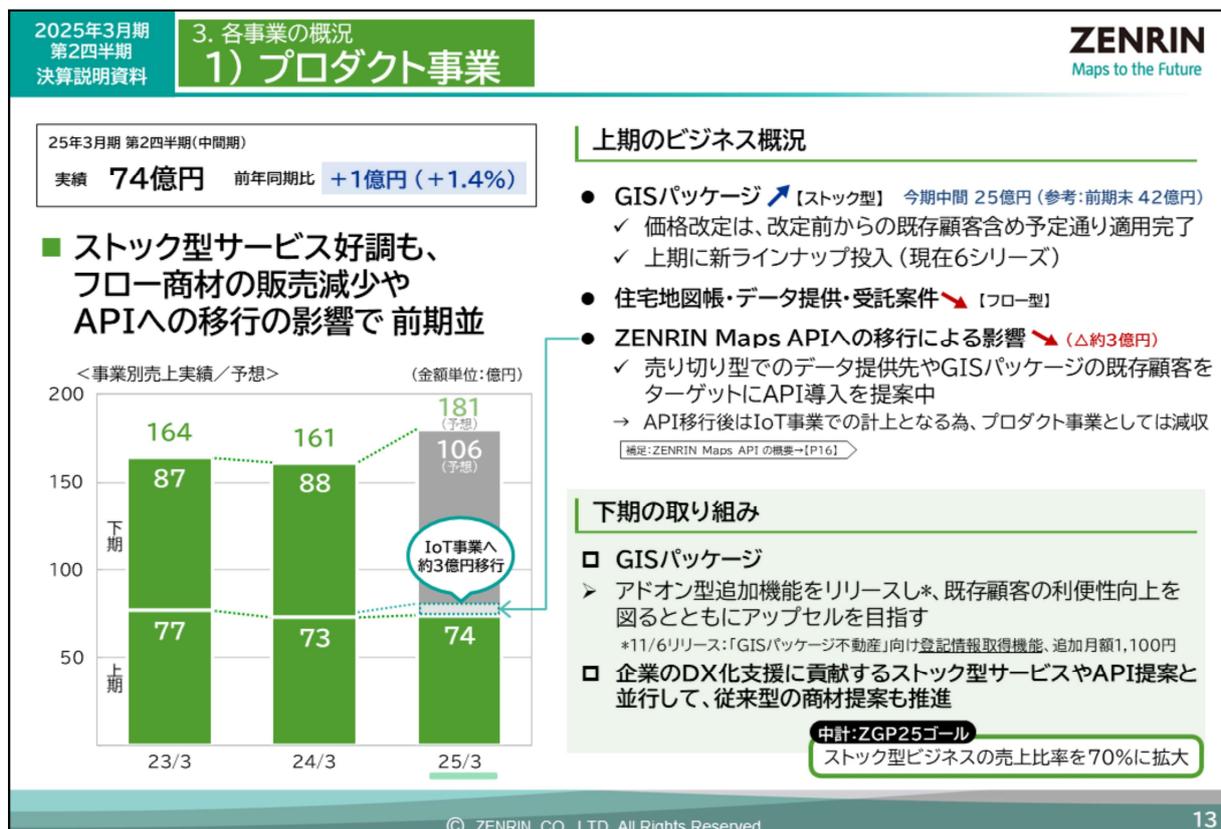
当第2四半期は増収増益となりましたが、
 一過性要因などを除くと、概ね計画通りに進捗しております。
 自動車生産等の外部環境や、受託案件の成約状況など、
 不透明な状況であるため
 通期の業績予想は、期初の予想値から変更せず、据え置きとしております。

下期は、パッケージサービスやAPIへの移行を、引き続き
 強化してまいります。
 新規案件及び受託案件の獲得も見込んでいるため、適切に費用を
 コントロールしながら、目標達成に向けて取り組んでまいります。

3. 各事業の概況

- 1) プロダクト事業
- 2) 公共ソリューション事業
- 3) マーケティングソリューション事業
- 4) IoT事業
- 5) オートモーティブ事業

各事業の概況について、ご説明いたします。



【プロダクト事業】

上期は、ストック型商品のGISパッケージの販売が好調に推移しております。業務に特化した新ラインナップ（セールスサポート）も投入し、現在6シリーズになっております。一方で、フロー型の地図帳やデータ提供、受託案件は若干減少し、プロダクト事業全体では、前期並みとなりました。

当社は、データ提供のみのフロー型ビジネスから、お客様の利便性も高く、安定収益基盤となるストック型のZENRIN Maps APIへの移行を推進しております。
 （ZENRIN Maps APIの売上高はIoT事業での計上となります。
 上期は、IoT事業へ約3億円移行いたしました。）

フロー型からストック型への転換、及びIoT事業への移行の影響で、プロダクト事業の売上高は一時的に減少する可能性はありますが、パッケージ商品のオプション機能追加など、アップセルで顧客単価を上げて、プロダクト事業も拡大を目指してまいります。

市場においては、DXによるデータ利用が一般的になってまいりましたので、当社も、企業のDX化の第一歩を支援するプロダクトの開発・提供に、今後も注力してまいります。

2025年3月期
第2四半期
決算説明資料

3. 各事業の概況
2) 公共ソリューション事業

ZENRIN
Maps to the Future

25年3月期 第2四半期(中間期)
実績 29億円 前年同期比 **+0億円 (+1.1%)**

■ **前期の大型受託案件の反動減があるが、地図データ提供や受託案件増加で前期並**

<事業別売上実績/予想> (金額単位: 億円)

時期	23/3	24/3	25/3
下期	74	81	75 (予想)
上期	25	29	29

前期大型受託案件の反動減影響で減収予想

上期のビジネス概況

- **地図データ提供** ➡【フロー型】
 - ✓ 各自治体への住宅地図データ提供案件が増加
- **受託案件** ➡【フロー型】
 - ✓ 特注地図の制作受託や調査受託、DX関連案件が増加

(事例)【防災】水防法等の関連法改正 → 被害想定区域等の見直し → ハザードマップ改訂
 【調査】空き家対策関連法の改正 → 定期サイクルで情報更新調査を受託
 【DX】自治体が保有する紙台帳の電子化・システム化に伴う作業受託 (作業受託、住所データクレンジング(正規化)、など)
 【スマートシティ】埼玉県秩父市の事例: 共同配送、ドローン物流、デマンド交通等を社会実装

下期の取り組み

- 前期大型受託案件の反動で前期比減収を見込むが、ストック型サービス*の強化で中期的な安定収益基盤構築へ取り組む
- 災害時支援協定(759自治体)やストック型サービス*(延べ約500自治体)での自治体リレーションをもとに、DXによる地域課題解決のソリューション提案に取り組む

*「ゼンリン住宅地図LGWAN」「自治体専用 住宅地図 for WEB」

中計:ZGP25ゴール
 フロー型ビジネスからストック型ビジネスへの転換と
 受託ソリューションによる売上拡大

© ZENRIN CO., LTD. All Rights Reserved. 14

【公共ソリューション事業】

前期の大型受託案件の反動減がございましたが、フロー型の地図データ提供や受託案件が増加し、前期並みで推移しております。

受託案件は、水防法や空き家対策関連法等の改正により、ハザードマップ制作や調査受託案件が増加いたしました。また秩父市では、スマートシティの取り組みにおける地域の物流課題解決支援としてデマンド交通など、実証実験レベルではありますが、実際に収益を計上するまでに至っております。

ストック型サービス（ゼンリン住宅地図LGWAN、「自治体専用」住宅地図 for WEB）の導入も進捗しており、中長期的な安定基盤構築を目指して、一層強化してまいります。

また、災害時支援協定も、現在759の自治体と締結しておりますが、自治体とのリレーション構築も進めつつ、DXによる地域課題の解決に、積極的に取り組んでまいります。

2025年3月期
 第2四半期
 決算説明資料

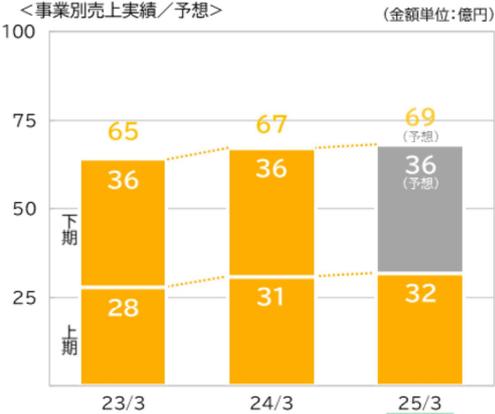
3. 各事業の概況
 3) マーケティングソリューション事業



25年3月期 第2四半期(中間期)
 実績 **32億円** 前年同期比 **+0億円(+1.2%)**

■ 販促支援サービスが堅調

<事業別売上実績/予想> (金額単位: 億円)



四半期	上期 (億円)	下期 (億円)	合計 (億円)
23/3	28	36	65
24/3	31	36	67
25/3	32	36 (予想)	69 (予想)

上期のビジネス概況

- 販促パッケージ「らくらく販促マップ」➡【フロー型・ストック型】
 ✓ らくらく販促マップにエリア分析やポスティング等を行うオプションを追加した「セレクトソリューションサービス」が堅調に推移
- コンサルティングサービス ➡【フロー型・ストック型】
 ✓ 多店舗展開企業をターゲットに、マーケティング支援パッケージやコンサルティング系サービスを提供



<導入業種例>
 【小売】スーパー、ドラッグストア、飲食店、家具、アパレル、ペットショップ、カー用品、移動販売…
 【娯楽】ゲーム、パチンコ店…
 【サービス】美容室、コインランドリー、フィットネス、自動車整備、カーシェア、コインパーキング、不動産、移動販売、冠婚葬祭業、買取ショップ、ランクルーム、運送サービス…

下期の取り組み

- ターゲット業種拡大など、販促パッケージ推進を継続
- パッケージを入口として高付加価値なコンサルティング系サービスを提供・拡大

中計:ZGP25ゴール

地域の中小企業や個人事業主向け販促課題の解決により収益拡大を実現

© ZENRIN CO., LTD. All Rights Reserved. 15

【マーケティングソリューション事業】

販促支援パッケージの「らくらく販促マップ」がオプションサービス含め、堅調に推移しています。

エリア分析により効率的なプロモーションができることを評価をしていただいていると認識しております。

また子会社のゼンリンマーケティングソリューションズでは、コンサルティングサービスや、多店舗展開している企業向けのマーケティングを支援するストック型パッケージ商品（ArmBox）を展開しており好評をいただいております。

当事業分野は、特に中小個店などでは、まだDXが浸透している状態ではありませんが、全国にある弊社の営業リソースを活用し、ストック型のパッケージ商品など、DX化の第一歩の支援から、当社のマーケティングソリューション事業の拡大を積極的に推進していきたいと考えております。

2025年3月期
第2四半期
決算説明資料

3. 各事業の概況
4) IoT事業

ZENRIN
Maps to the Future

25年3月期 第2四半期(中間期)
実績 68億円 前年同期比 **+4億円 (+6.6%)**

- ZENRIN Maps APIが好調
- ソリューションサービスも堅調

<事業別売上実績/予想> (金額単位: 億円)

期	23/3	24/3	25/3
下期	80	76	147 (予想)
上期	65	63	78 (予想)
合計	145	140	225

「Will Smart」の持分法適用関連会社移行による減収影響
 2Q=約△4億円、3Q=約△10億円

上期のビジネス概況

- ZENRIN Maps API ↗【ストック型】(前期末 3億円 → 今期中間 5億円)
顧客の業務システム/Webサイト等へ組み込むことで、ゼンリンデータベースサーバから最新地図データや高度な位置情報活用機能を利用できる開発ツール。フルスクラッチ開発に比べ、安価・短期間にシステム構築可能
- ✓ 企業の業務DX化ニーズを追い風として利用企業が増加
- ✓ 新規獲得に加え、プロダクト事業の既存顧客が移行
- 大手企業向けソリューションサービス ↗【初期: フロー型・運用: ストック型】
- ✓ 開発受託は若干増
- ✓ 物流業(配送支援システム)や業務DXに伴う住所クレンジング(正規化作業)など、地図情報を活用したDX提案で顧客の課題解決に貢献

下期の取り組み

- 大手企業向けソリューションサービス
 - 大手物流企業への更なる提案、開発を強化
- ZENRIN Maps API
 - 業界/業務別に最適化したソリューションパッケージの追加など

中計・ZGP25ゴール

「ZENRIN Maps API」を活用した
業界別ソリューション強化による売上拡大

© ZENRIN CO., LTD. All Rights Reserved. 16

【IoT事業】

IoT事業は、前年同期比4億円の増収となりました。
 ストック型のAPIサービス「ZENRIN Maps API」が好調に推移しており、前期末での売上高は3億円でしたが、プロダクト事業からの移行も含め、今期は第2四半期で既に5億円に達しております。
 当社の最新の地図データや機能をお客様のシステムに簡単に組み込むことができる利便性とDXニーズの追い風もあり、順調に進捗しております。

今後はお客様（業界・業務別）のニーズに最適化した機能をAPI化してソリューションパッケージとしての商品開発にも一層注力してまいります。
 現在、地域ビジネスにも取り組んでおりますが、各地域に特化した商品開発およびサービスの提供なども目指してまいります。

また、大手企業向けソリューションサービスでは、様々な業界で当社地図情報を活用したDX支援を進めており、特に社会課題などを背景とした物流業界では、端末数に応じた地図利用料の増加など、業務効率化支援などを推進しております。

引き続き、お客様のDXを支援するソリューションサービスを積極的に提案し、そこから安定したストック型ビジネスへ転換していくことも推進してまいります。

2025年3月期
第2四半期
決算説明資料

3. 各事業の概況
5) オートモーティブ事業

ZENRIN
Maps to the Future

25年3月期 第2四半期(中間期)
実績 83億円 前年同期比 **+9億円 (+13.0%)**

■ カーナビ向けデータ提供増加に加え、1Qは一過性要因で増加

<事業別売上実績/予想> (金額単位: 億円)

期	カーナビ向けデータ提供	その他	合計
23/3 (前期)	76	62	139
24/3 (前四半期)	87	73	161
25/3 (2025年1Q)	87 (一過性要因による売上計上)	83	171 (予想)

<市況> 国内自動車販売台数【216万台】(前年同期222万台、▲2.6%)
(出典元: 日本自動車販売協会連合会・全国軽自動車協会連合会、24年4月～24年9月)

上期のビジネス概況

- **カーナビ向けデータ提供** 【フロー型】
 - ✓ 市況回復の一巡や特定メーカーの出荷停止影響もあるが採用ナビ機種増加によるシェアアップとナビアプリの同梱提供による単価アップ施策が増収に貢献
 - ↳ 1Qは一部メーカーで台数好調も、2Qは前年並に近づきつつあり、下期推移と通期見通しは不確定
- **1Qに過年度の数量報告過少分を計上(一過性要因)**
 - ✓ 特定メーカーから、過去数年分の出荷数量が過少であった旨の報告を受領し、過少分に対する売上を1Qに計上
- **EV関連の企業共創(アライアンス)を強化**
 - ✓ 8/29 「バイオニアとゼンリン 産業界のモビリティ課題解決に向けて協業強化」
 - ✓ 9/20 「三菱自動車とゼンリングループ 電動車の走行・充電データと地図情報を活用した国内初のサービス「EV行動分析レポート」の提供開始」

下期の取り組み

- 高付加価値化による単価アップ
- EV/ADASコンテンツの提案強化
- 市場シェア拡大
- 当社データ未採用メーカーへの切り替え提案を継続

中計:ZGP25ゴール
 ビジネス領域の拡大とADASコンテンツによる高付加価値化

© ZENRIN CO., LTD. All Rights Reserved. 17

【オートモーティブ事業】

自動車販売は216万台と前年同期より若干減少しておりますが、当社のカーナビ向けデータ提供ビジネスは、コロナ禍前の状態にまで回復しています。当社データを採用しているカーナビ機種増加によるシェアアップと単価アップ、及び第1四半期には一部メーカーの過年度における数量過少報告分の計上もあり、第2四半期は前年同期比9億円の増収となりました。

しかしながら、下期の市場の見通しは不透明のため、業績予想は据え置きとしております。

また、国内自動車市場の伸びは、今後は緩やかになると認識しておりますので、ADASやEVコンテンツ、コネクテッド対応など、付加価値の高いコンテンツを提供し、安定したビジネスとなるよう取り組んでまいります。

ZENRIN

Maps to the Future

株式会社ゼンリン <https://www.zenrin.co.jp>

IRお問い合わせ先 zenrin-ir@zenrin.co.jp

会社説明資料 https://www.zenrin.co.jp/ir/pdf/corporate_profile.pdf

- 説明スライド最終ページ

以降のAppendixを含む説明資料全体は以下の弊社ページで公開しております

<https://www.zenrin.co.jp/company/ir/library/materials/index.html>